

北海道社会保険病院だより

平成16年9月15日 第9号

薬剤部(薬局)の紹介

薬剤部長 渡辺博文

薬剤部は業務内容ごとに担当の部門が分かれています。

調剤室は外来の院内処方、および入院の処方を行います。ここでは飲み薬や塗り薬、はり薬などを調剤します。窓口では、おくすりに関する相談などをお受けしています。薬歴やおくすりの情報が患者様の手



元に残るようおくすり手帳・薬剤情報を配布しています。また、入院の処方では錠剤をODP(一包化)にする分包装もあります。

最近ではおくすり(以下薬剤とします)の進歩もめざましく、はり薬でも飲み薬と同じような作用を示す薬剤もあります。入院患者様には薬剤の説明をし、薬歴管理として副作用のチェックなどを行っています。退院後入院中に確認しておけば

良かったと思われることでもお気軽にご相談ください。

薬剤は正しく飲んで初めて効き目があらわれます。飲み忘れがあったからといって一度に2回分飲んではいけません。

薬品情報室では薬剤に関する最新情報を発信しています。

医療スタッフからの薬剤に関する問い合わせに対し、文献を検索して回答します。また、外部の方との窓口でもあります。

製剤室は特殊製剤をはじめとした院内製剤の調整、また、無菌室を利用し、IVH(高カプオリ輸液)や化学療法剤の混注業務を行っており、より安全な薬剤の供給をしています。

注射剤室は処方された注射薬の個人別セットを行っています。注射薬の保管状態、使用期限などの品質管理のチェックも行っています。



他には次の部門があります。薬剤によっては副作用が発現するケースがあります。その場合患者様個々にその薬剤の血液中の濃度を測り、解析することにより、より安全な投与設計をすることが出来ます。現在この部門はまだ稼働しておりませんが近い将来立ち上げる予定です。また、市販前の臨床試験段階のくすり(治験薬)の管理も行っています。ボランティアの患者様のご協力を得て治験薬の有効性、安全性などの調査をしています。

当院では外来患者様は特殊な薬剤を除いてすべて院外処方箋をご利用いただいています。自宅、職場近くにかかりつけ薬局を作り、他の病院で処方された薬剤でもそこで調剤してもらうと、薬剤の重複や飲み合わせなどをチェックしてもらえます。

当院会計窓口の横に札幌薬剤師会の院外処方箋FAXコーナーがあります。FAXコーナーでは患者様のご利用しやすい便利な薬局を紹介し、そこへ事前にFAXしておけば待ち時間も短く、

豊平公園



薬剤をもらうことが出来ず。当院薬剤部では院外処方箋も含めての相談に応じていますのでお気軽にご相談ください。

栄養課からも一言

食品に良い食べ合わせ、悪い食べ合わせがあるように食品と薬にも飲み合わせがあるのをご存知ですか？代表的な悪い飲み合わせについてご紹介します。

納豆とワルファリン

(商品名ワーファリン)

納豆は煮た大豆に納豆菌を植えて発酵させた食品です。納豆菌は止血と骨を強くする働きをもつビタミンKを合成する働きがあり、大豆には殆ど含まれないビタミンKが納豆にはたっぷり含まれます。血をサラサラにする薬ワルファリンを飲んでいる方はビタミンKが薬の効き目を弱くする事から納豆を禁止しています。

グレープフルーツジュースとカルシウム拮抗剤

(商品名アダラートなど)

グレープフルーツジュースといっしょに飲んではいけない薬があります。降圧剤のカルシウム拮抗剤もその一つで、グレープフルーツジュースに含まれている成分(ナリンジン)が薬の作用を強めるといふ報告があります。

牛乳と合成抗菌剤

(商品名シプロキサなど)

牛乳に含まれるカルシウムやマグネシウムなどによって、シプロキサンを代表とするニューキノロン系の合成抗菌剤の吸収が低下し効果が弱まる場合があります。薬は牛乳で飲まないように注意しましょう。

この他にも色々な相互作用が報告されており、ここに紹介した食品は身体に悪い食品ではありません。思い込みで「食べない」よりも医師、薬剤師に相談してください。

栄養課 小笠原加津子

外来患者様へ

外来看護科長

今年の札幌は、5年振りの猛暑でした。熱帯夜は、25度以上と言われますが、札幌では、25度以上にはならないものの、23〜24度と寝苦しい夜が続き「あつい、あつい」の連呼で、患者の皆様方もさぞ辛い毎日だったのではないのでしょうか？

さて、当院外来棟は昨年3月に完成し1年が経ちました。総合案内に立っていますと、「受付は何処ですか？」とか「病棟は何処ですか？」などの問い合わせが多く、院内説明が分かりづらいのかと考え、患者様と同様に正面玄関から入り立ち止まってみると、左手に内科ホール、右手

に受付事務、何故か自然に看護師のいる方向へ目が行き、内科ホールへと進みたくありません。

受付事務をもう少し目立つように工夫したほうが良いのかと一人考えておりましたが、解決策はこれです。

まず外来で来院した際は、先に右手をご覧下さい。総合案内の場所に病院を代表する美人ぞろいの(?)各病棟科長が待機しておりますので、まずはそこに向かって一歩進んでください。(勇気が必要かも知れませんが、)そこでわからない事や希望受診科のご相談をしてください。とびきりの笑顔で答えてくれると思います。(これは間違いなし。)

金谷春美

当院の外来受付は午前8時から11時、午後は12時30分から15時30分です。予約患者様の中で受付時間外の受診の場合は自動再来機が停止しますので、新患受付の窓口で受付をしてください。これで予約時間の受診が可能になります。

また、再来の患者様で初めて他の診療科を受診される場合は自動再来受付機の再来画面には、再来患者様の新規受診科は表示されないため、新患受付窓口にて新規受診受付の手続きを済ませて下さい。

また、患者様のお見舞いに来院され、患者様の入院され

ている病棟が分からない場合も新患受付窓口で対応しておりますので、お気軽に声をおかけください。

病院も新しくなり、まだまだ各方面において患者様に対するご配慮が足りず、ご迷惑をおかけする点が多いと思われるかもしれませんが、そのような時は近くの職員、通りすがりの職員に気軽に声をおかけください。声を掛けられることをお待ちしております。よろしくお願いいたします。



編 集 後 記

アテネオリンピックも終わり、気付けば随分過ぎやすい季節になってきました。この季節は気温の変化も大きく、体調を崩しやすい季節でもあります。体調管理には十分気を付けましょう。

編集責任者
事務局 佐々木恵一

北海道社会保険病院

TEL : 011-831-5151

URL : <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>